

関西大学 初等部
2017 年度学校評価報告書



2018 年 3 月

目 次

1. 本校の概要.....	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	1
3. アンケートの実施状況について.....	10
4. アンケート結果の分析.....	11
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果.....	13
6. 校長の意見書.....	14
7. アンケート結果.....	15

1 本校の概要

(1) 沿革

2010年（平成22年）4月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに12年一貫教育を行う。学級数12、児童数369名、教員数34名（専任20、常勤1、非常勤11 特任外国語講師2）である。

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動 一学びを深め 志高一」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「感性豊かな子」「挑戦する子」としている。

2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：本校教育の柱である思考力育成の成果を教科学習等だけでなく、児童の生活においても反映させるよう努めること

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安定した学級経営と 学力向上</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営及び学習指導 (オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄への各授業での子ども評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答80%以上) 校長による日常的な各学級回り（授業等参観） 児童の学力の向上に資する教員の研究授業（全専任1回 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>学級経営にあたっては、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳・学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログにより家庭との連携を進めた。さらには、日記やアンケートなどによる児童への内面的な指導にも努めた。各担任や教科担当と管理職の連携を密にし、児童・保護者・学級等の課題については早い段階で報告を受け、素早い対応に努めた。</p> <p>学力向上については、思考力育成に向け、児童の資質・能力を育てるために思考スキルをどのようにいかしながら授業をデザインするのかについて実践・研究を進めた。</p> <p>ICT環境の整備とICTの活用については、児童の学びを深め、広げるために、ノートパソコン、iPad、電子黒板、実物投影機等の機器を有効活用するとともに、iBooks等のデジタルデータの活用やプログラミング学習の試行等の取組を始めている。また、児童の学習活動の充実のため、各学年で外部人材の協力を得ている。</p>

<p>以上)・研究会(年15回予定)の実施及び教科会議等の月1回の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究発表会の開催(2月3日) ・ 全国学力・学習状況調査結果(私立・国立小学校の平均点を上回る。) 	<p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>機会あるごとに校長が各教室をまわり児童の様子、教員の指導状況を見ているが、いずれの学級においても安定した学級経営が行われており、児童が落ち着いて主体的に学ぶ様子が見られる。学校運営、生徒指導、教科指導面でも、月1回の定例会議を開き、情報交流及び指導の充実を図った。6月に実施したオープンスクール参加の受験対象保護者のアンケートでは、児童の学びの主体性やそれを引き出す教員の指導力を感じるなどの感想をいただいている。保護者アンケートにおいても、学級経営・学習指導に関する項目すべてで90%以上の肯定的評価をいただいた。また、今年度も校長を除く全教員(専任・常勤)が26本の研究授業を行い、計18回の研究会を実施した。その際、外部指導者(今年度は6名)を招聘し指導を受けている。実践・研究のまとめとして2月に第8回の研究発表会を開催し、全学級計23本の授業、中等部においても、各学年の『考える科』の授業3本を公開するとともに、授業協議会、外部指導者によるシンポジウムを実施した。今回も、全国から800名を超える申し込みがあるなど、高い評価を受けた。また、日常の学習活動にもゲストティーチャーとして、国際交流関係者、助産師、保健所、警察署等々、多様な職種の方の支援を受けた。</p> <p>これまでの思考力育成の結果として、昨年引き続き文部科学省の全国学力・学習状況調査において、全体平均はもちろんのこと、私立・国立小学校の平均点を上回ることができた。生活面においても大きな問題事象が発生しておらず、保護者からの要望等については、担任、学年団で対応できている。また、通院を要するようなけが等の発生も増えていないことから、思考力育成の取組の成果が、学習面のみならず、生活面にも表れ、児童が主体的に考え判断する「考動」につながっているのではないかと考えている。</p> <p>ICT環境・教育については、部会を中心に環境整備、教材開発を積極的に進めることができた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学力向上の柱となる思考力育成の研究は今年度で8年目を迎えている。本校の研究内容は、公表された新学習指導要領の方向性と合致することが多く、継続して実施していきたい。</p> <p>学力状況の客観的指標である文部科学省の全国学力・学習状況調査については、今後も現在レベルの成績を維持するため、基礎基本の定着や児童の実態に応じた個人指導も充実させたい。</p> <p>。</p>
--	--

	<p>また、児童の生活面については、学年団の教員が密に連絡を取り合うとともに、管理職への報告や、現在実施している職員会議等での児童の実態共有の場の設定を継続し、不登校気味の児童等について、学校全体で情報を共有し対応にあたりたい。</p> <p>ICT活用については、学びの充実のために取組を進め、その活用方法、情報モラルについて十分に検討しながら児童への指導を進めたい。</p>
<p>イ 図書館教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本（数十冊単位）貸し出し） ・ 読書講座を各学年1回以上実施 ・ 読書メソッドの活用（ブックトーク、アニメーション、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>思考力の基盤の充実と伸長のための読書活動充実に向け、各児童が借りた本の冊数集計や一覧作成を行い、日頃の指導に役立てている。図書の授業では、読書に加え、図書館司書による読み聞かせを行うとともに、リテラチャーサークル等の実施や調べ学習における資料の活用等、情報活用能力の育成にも努めている。各学年のオープンスペースにあるブックトラックを活用し、読書や調べ学習の充実を図っている。また、今年度も数学家による数学教室等を開催した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」を目的に応じて活用し、読書に加え探究学習のために各教科等での情報収集の場としたり、一定期間学年オープンスペースに資料本を置いたりするなど活用頻度は高い。2月末までの本の貸し出し数は、全学年で約60,000冊である。</p> <p>（1年 17,300冊 2年 15,500冊 3年 8,500冊 4年 7,200冊 5年 6,400冊 6年 5,700冊）。2名の司書は、児童の選書支援はもとより、情報活用に関わる支援、また、教員に対する支援を行っている。読書講座については、外部講師ではなく、学年や学習単元に応じ司書が各学年複数回実施した。読書メソッドについては、本に対する興味・関心を高めるとともに、児童の思考を促す取組としても有効であった。読書講座については、数学家による講座も高学年児童の算数の取組に活用した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられており、読書指導、情報活用力の育成両面から次年度も継続して取り組みたい。貸出量については、今年度も低学年と比較して高学年の数値が下がる傾向にある。これについては、ページ数や文字数等も関係するので単純比較はできないと考えており、今後、日常の</p>

	<p>読書量、読書内容、また資料活用について司書と連携して指導・支援をすすめるとともに、積極的な図書館活用につながる啓発を行っていききたい。また、図書を扱うルールやマナーについては課題も出ているので、改善に向けた具体的な指導を進めていききたい。図書館司書による読み聞かせ、読書支援、資料活用等については児童の学びを広げ深めるために効果的であったと考えている。算数科の学習とは異なる視点による若手数学家の指導は、高学年児童の知的関心を高めており、他校にはない独自の取組として次年度以降も可能な限り継続していききたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流 <ol style="list-style-type: none"> ① 各学年（2年生以上）の国際交流取組の生活科・総合的な学習の時間への組み込み ② 交流国、交流内容に応じたテレビ会議を、各学年3回以上実施 ③ 英語教育との関連づけ（テレビ会議、修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を3～10コマ設定） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>今年度は、2年-韓国 3年-中国 4年-台湾 5年-フィリピン 6年-オーストラリアとの交流を行った。テレビ会議システムにより直接交流をしたり、学習成果物の交換をしたりしている。その際、部分的に英語で質問や挨拶ができるよう、英語の授業の中で、学年の実態に応じた学習を展開している。</p> <p>また、6年生は英語学習のまとめもかねて、10月にオーストラリアへの修学旅行を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>テレビ会議については、交流相手校や組織と連携し、少なくとも各学年で年3回以上実施できた。事前に交流テーマを決め英語も交えて直接交流することにより、児童が異文化理解を深めたり、コミュニケーション面で自信を持ったりすることができた。6年生の修学旅行は、オーストラリアでの学校交流やホームステイがコミュニケーション力育成のきっかけとなる貴重な経験となっている。</p> <p>これらの学習を、2年生では生活科に、3年生以上では総合的な学習の時間に位置づけ、学年に応じた内容、時間を設定し継続的に取り組むことができた。</p> <p>英語教育においては、会話中心の指導に加えて思考スキルを活用した学習方法の研究も行うとともに、1年生から4年生までは英語劇等の保護者向け発表会を開催している。また、国際交流や修学旅行実施にあたって、英語によるコミュニケーション力向上のための学習を、学年に応じ4～10コマ実施した。</p>

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>現在実施している各学年の国際交流の取組は軌道に乗りつつあるが、テレビ会議等、ICT環境を活用しながら効率的な運用の検討とともに、近年の世界情勢等を勘案し円滑な連携ができるよう考えていきたい。また、次年度の6年生のオーストラリア訪問では、ホームステイを3泊にすることを予定しており、異文化理解、コミュニケーション力育成の面でこれまで以上に学びが深まることを期待している。</p> <p>英語教育については、コミュニケーション力の育成と思考スキル育成との関連について引き続き検討をする。</p> <p>教育課程外の取組である夏休みを利用した海外のサマースクールについては、保護者のニーズ等と関連させて実施について検討していきたい。</p>
--	--

(2) 重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 生徒指導・人権教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で児童を指導・支援する体制の確立（年度当初の『子どもを語る会』実施及び児童の情報交流を毎月実施） 児童対象の生活アンケートを年2回実施し、実態把握と必要に応じ学校全体での早期対応に努める。 いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の確立（生徒指導連携会議及び、いじめ・不登校対策委員会実施による早期発見・早期対応） 人権教育の取組充実（全児童対象の人権教育講演会を1回実施、情報モラルに係る学習機会の設定、系統性をふまえた各学年の学習内容の確 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>今年度も、生徒指導部、健康教育部、教務部の各主任と、当該学年主任・担任からなる生徒指導連携会議を生徒指導の中核とした。また、「子どもを語る会」、毎月の職員会議における各学級の状況報告により、子ども理解について教員全体で共有するとともに、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対する協力を依頼した。いじめ・不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて円滑な対応ができる体制を整えている。</p> <p>人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施するとともに、人権教育講演会を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>教員による日常的な児童観察の他、年2回の児童生活アンケートや校長による年3回の「がんばりましょうカード」の取組を実施、児童連絡帳や懇談会等での保護者との連携により把握を図っている。「子どもを語る会」については、年度当初に加え年度末にも実施し次年度への引き継ぎを行った。「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話、連絡帳により家庭との意思疎通を頻繁に図っている。今年度、いじめ問題は生起していないが、不登校傾向のあ</p>

<p>立)</p>	<p>る児童は数名おり、担任だけが抱えることなく連携会議を招集するなど、学校全体で未然防止・早期対応に取り組んでいる。不登校対策については、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーとの連携も行っている。人権教育については、分野別の学年カリキュラムをもとに指導を進めるとともに、講演会として、視覚障がい乗り越えオペラ歌手として活躍されている方を招聘し、全児童に視覚障がい、介助犬についての具体的な話をしていただいた。また、ICT部会と連携し、高学年児童を対象とした情報モラルの講演会を実施した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>携帯電話の登下校中（特に下校時）の使用等の実態が今年度もあったので、引き続き児童への指導と保護者への啓発を進めたい。</p> <p>生徒指導全体で見れば、今年度も毎月の職員会議での報告事案は少なく、安定した教育活動が行われていると考えられるが、多くの教員の目で指導にあたり学校全体で解決にあたる体制を継続していきたい。</p> <p>また、人権教育に関わるカリキュラムについては、ねらいや内容を全体で共有し、部会を中心に精査していきたい。</p>
<p>イ よりよい学校生活を築く態度を育成する特別活動の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事開催（テレビによる全校集会を、年10回程度実施） ・ 児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会・・・月1回実施 ・ クラブ活動・・・年7回実施 ・ 全校たてわり活動 <ul style="list-style-type: none"> ・・・年5回実施 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>学校全体の行事として、運動会は6月、文化祭は11月に実施した。宿泊学習については、1年生から3年生までの高岳館を使った宿泊訓練、4年生のスキー合宿、5年生の南阿波体験学習、6年生の飛鳥合宿、オーストラリアへの修学旅行がある。集団活動として、全校たてわり活動を年5回、5、6年生による委員会活動、4年生以上によるクラブ活動を実施した。また、今年度は、テレビ放送による全校集会も実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>運動会、文化祭は児童の祖父母等の見学も多数あり、両方とも大盛況であった。宿泊学習については、学年に応じたねらいを設定し、児童の自主性、集団力、基本的な生活習慣等の面で成果を出すことができた。たてわり活動については、高学年の児童の意識が高くなってきており、それぞれのグループでリーダーシップを発揮し回を追うごとに楽しい活動にすることができた。また、委員会活動については、5月に発足後、第1木曜日に活動を行い、委員会ごとに学校施設、教育活動、学校行事に係る奉仕活動を実施した。クラブ活動については、後期</p>

	<p>に発足後、月1回以上（今年度は計7回）実施し、文化系、スポーツ系ともに、児童が自主的、意欲的な活動を行うことができた。テレビ集会については、今年度6回実施となったが、校長講話に加え、毎回担当する教員をかえ、心の教育、生活面での目標等、テーマにそった話をする事ができた。</p>
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学校行事については、文化祭、運動会等において全児童が十分に力を発揮し、達成感を持ち自尊感情を高めることができたと考えているが、準備にかかる時間数について課題も出されたので、次年度にいかしたい。また、今年度はテレビによる全校集会を6回実施し、生活目標等を提示することで、児童の学校生活全般にわたる自覚を高めることができた。</p> <p>集団活動については、各教員が日常の学級指導を丁寧に行うことをさらに意識するとともに、ペア学年によるたてわり清掃を取り入れるなど、たてわり活動の充実を図ることで学年間の結びつきを強めることができるようにする。また、クラブ・委員会活動については、それぞれのねらいをより明確にし、児童の自主的な活動の充実を図る。</p>

(3) 重点目標③： 管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の安全管理に関する定期的な訓練及び指導の実施（年3回実施） 教育後援会（保護者）との連携及び啓発（地区委員会による通学見守り活動や啓発活動の実施） 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会で具体的な指導を継続して行い、意識の向上を図った。また、学校便り（初等部日より、生徒指導日より）により、安全に関する保護者啓発を進めることに加え、教育後援会の活動として、今年度も登下校見守り運動が行われた。</p> <p>管理面では一斉下校指導、地震・火災等の避難訓練、緊急時の児童引き渡し訓練、不審者侵入対応訓練等を実施し、万全を期すよう努めている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>安全管理部を中心に、児童への指導と安全管理面での取組が定着した（4・8・1月：一斉下校指導 6月：引き渡し訓練 1月：避難訓練）。また、救命研修（6月）及び不審者対応訓練（9月）も行っている。児童の意識向上（特に登下校時の公共交通機関のマナー、ルールの遵守）については、一般の方からのご指摘や苦情が低学年を中心にあったが、都度、直接</p>

	<p>指導や全体への指導を行ってきた。また、教育後援会の地区委員会主導による見守り活動及び啓発活動については、委員以外の保護者にも広がりつつある。</p>
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>児童の登下校だけではなく、校内での基本的なルール・マナーについても教員の課題意識があるので、全教員の共通認識のもと、日常の学級指導や全体集会での指導について検討するとともに、教育後援会の安全指導の取組の継続実施を依頼し、各保護者への啓発及び協力依頼も継続することにより、学校と家庭が一体となった安全管理及び児童の意識向上を図る。</p>
<p>イ 安心・安全の学校生活を構築するための給食・アレルギー対策の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギー対応についての教員研修の実施及び職員会議における教員の情報共有 ・ 業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底（給食業者との月1回の調整会議を実施） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>給食については、業者側だけでなく学校側も管理栄養士を配置し、食品の安全管理や調理等に細かい指導を行っている。アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況について認識するとともに、毎年、年度末に保護者からの児童の状況についての書類をもとに、次年度の対応策について確認している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>給食のアレルギー対策については、給食業者、管理栄養士、担任、養護教諭等の連携により対応できている。日常的な管理栄養士と業者の打ち合わせに加え、月1回、管理栄養士、養護教諭、事務室の担当と業者による会議を実施し、給食管理について調整、情報交換をしている。高槻病院の医師によるエピペン研修も実施した。また、宿泊行事においては、事前に業者と密に連絡をとりあい、個々の児童の実態に応じた食事を用意している。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>給食、宿泊行事におけるアレルギー対応については、今後も万全を期したい。また、エピペン持参の児童も在籍しているので、救急体制についても全教員で共通理解できるよう努める。また、アレルギー対応だけでなく、給食のメニュー向上に向けても引き続き、業者との連携を進めていきたい。</p>
<p>ウ より多くの出願をめざす入学試験の実施</p> <p>【評価指標】</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>受験生の保護者対象説明会及び各幼児教室(塾)訪問と各教室主催の説明会での広報を継続して実施している。今年度も9</p>

<ul style="list-style-type: none"> 新しい入学試験内容・方法の確立 入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施 年4回の学校説明会、オープンスクールの実施 年50回以上の幼児教室訪問 	<p>月末に、1日でペーパーテストと行動観察による入学試験を実施した。また、合格者対象の説明会、入学前のオリエンテーションを実施している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>近畿全般の小学校入試に関しては、倍率を維持できた学校と定員を下回る学校の差が大きいが、本校については、今年度出願数が回復し、2.5倍となった。</p> <p>学校主催の3回の説明会や6月のオープンスクール、また、未就学児童(年長)対象の体験授業の参加数がどの回も20%程度増加した。</p> <p>幼児教室については、年度当初に主な幼児教室約30カ所を校長、教頭、広報主任が訪問し、広報用のちらし・ポスターを配布している。3月から8月にかけては、幼児教室主催の学校・入試説明会、11月から2月にかけては入試報告会において、校長が説明を行っている。(今年度も、年度当初の教室訪問と合わせ目標を達成している。)</p> <p>ペーパーテストと行動観察による入学試験を1日(午前中)で実施するのは3回目となり円滑に実施することができた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>説明会でのアンケート調査や各幼児教室の関係者からの情報では、他の私学にはない本校の思考力育成の取組には魅力を感じるという感想が多くあり、引き続き本校の魅力について発信していくとともに、教育活動のさらなる充実と効果的な広報活動について検討を継続する。</p>
<p>エ 中等部・保護者・大学との連携の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職連携(週1回の初中定例会議、月1回の管理職会議の実施) 教育後援会との密な連携(管理職、事務職、教育後援会役員・委員による月1回の実行委員会実施) 保護者対象の説明会の充実(5、6年生保護者に加え、全校保護者対象の会を実施) 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>初等部と中等部の教頭、また、教頭と教務主任による週1回の初中定例会議の実施、月1回の管理職会議の実施により連携行事や調整事項について協議するとともに、年2回初中全体会議を開催した。</p> <p>保護者との連携では、日常的に学校と家庭が密に連絡を取り合う体制をとっている。また、教育後援会との連携では、月1回程度の実行委員会を開催し、学校行事への支援、登下校の見守り、新入学児童への支援、後援会独自の行事等について協議を行っている。関西大学からは、研究や授業への指導・協力、留学生の紹介、国際交流支援等を受けている。また、4年生のキャンパス訪問による大学創立に関する学習により、大学への帰属意識を向上させる取組も実施している。</p>

<p>・ 教育活動の様々な分野における大学との連携（4年生社会・道徳の小大連携）</p>	<p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>初中連携については、初中定例会議による調整が連携行事のスムーズな実施につながっている。管理職会議についても、課題の共有等、有意義な機会となった。また、内部進学について今年度初めて実施した、初中の校長による全校保護者への情報提供会には約120名の保護者が参加し好評であった。</p> <p>保護者との連携については、学校との信頼関係を築くことができているが、携帯の使用、車使用等、保護者自身のマナー等については課題が見られる。</p> <p>大学との連携については、4年生の歴史学習や研究への指導助言、また、国際理解教育における学部生、大学院生等の協力等については継続できているが、その他の連携については進んでいない面もある。</p>
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>初中連携について、管理職間の協議の場で課題の共通認識と方策について検討する機会を定着させる。</p> <p>保護者連携については、学校と家庭との連携とは別に、保護者同士の円滑な関係づくり、連携や、マナーについての啓発を教育後援会との連携により進めていきたい。</p> <p>また、大学との連携については、教員の指導力向上や児童の学習活動充実のために、さらなる連携を検討していく。</p>

3 アンケートの実施状況について

保護者アンケートは1月18日（木）から1月24日（水）、教員は1月17日（水）から1月19日（金）、児童は2月8日（木）から2月19日（月）に実施した。保護者アンケートの回収結果は、全保護者369名中322名、回収率87%で、昨年度より4ポイント増加している。また、記名率は96%と昨年より13ポイント増え、ほぼ記名をしていただいている。

教員アンケートは専任19名（1名は育児休暇取得中）、常勤講師1名、特任外国語講師2名、計22名から回答があった。専任の回収率は100%である。また、児童については、4年生から6年生を対象とし、回収率は100%である。

アンケート項目・内容については、教員40項目、保護者32項目とし、例年と同じく観点を揃えて対比させた。

評価については、3種類のアンケートとも4段階評価としている。（「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」）

項目・内容については、いずれも職員会議で検討・承認されたものである。

4 アンケート結果の分析

ア 教員・保護者アンケートについて

全体を通して、保護者の評価は今回も肯定的評価が90%を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたことは学校にとって非常に嬉しい結果であると考えている。一方で、教員については厳しく評価している項目が多い。アンケートの母数が22名と少ないため、1~2名の回答が割合に大きく反映されるということはあるが、新教育課程の完全実施も見据え、次年度に向けた課題として職員会議等で共通理解し、全体で検討を加えたい。以下、いくつかの項目についての分析を述べる。

No. 1は本校の私学としての独自性・認知度を、No. 2・3は初等部教育全体に対する納得度・満足度を尋ねているが、保護者についてはいずれも肯定的評価が98~99%と非常に高い評価となっている。教員については、No. 3（一人ひとりが大事にされる学級づくり）では評価が上がっているが、昨年度100%の肯定的評価だったNo. 2（他小学校に負けない教育）の評価が下がっている。評価が下がった原因について分析を行い、共通理解のもと、改善すべき点について検討していきたい。

No. 4からNo. 15（保護者はNo. 9, 10は無し）までは、学級経営・学習習慣を基本としてどのような学力向上策がとられたかについての項目である。保護者評価は、肯定的評価がいずれも90%を上回っており、初等部の授業、取組に対して満足してもらっていると考えているが、その中でNo. 8（家庭学習）、No. 11（工夫した英語授業）、No. 14（積極的な読書指導）についてはわずかに肯定的評価が下がっているため、次年度の教育活動にいかしたい。図書館活用、読書指導については、教員評価も下がっているため、部会を中心に改善を図りたい。また、教員評価で評価の下がっているカリキュラム作成（特に中等部接続、英語・国際理解、新教育課程）について、教科等部会を中心に検討を進めたい。

No. 16（教育内容の発信）については保護者の肯定的評価は上がっているが、No. 37（計画的な入試・広報）と併せ、教員評価は下がっている。入試広報戦略に大きく関わる項目であるため、関係部会を中心に検討を進めたい。

No. 17~21は生徒指導及び特別活動に関する項目である（保護者は、No. 21無し）。保護者評価はいずれも上がっているが、No. 17（基本的な生活習慣の指導）、No. 21（クラブ・委員会における指導）について教員が厳しい評価をしている。特に、No. 17（基本的な生活習慣の指導）については、課題意識を持つ教員が多いことがわかるため、生徒指導部会、特別活動部会を中心に検討を進めたい。

No. 22~25の道徳教育、人権教育に関する項目については、保護者の評価はどの項目も昨年度と同様に高い評価をいただいているが、教員の方は、No. 22（道徳的価値や実践力の育成）、No. 23（いのちの教育）、No. 24（国際理解教育）について評価が下がっているため、当該部会においてカリキュラム内容について精査していきたい。

No. 28からNo. 32（保護者はNo. 28, 30無し）は安全管理に関する項目である。保護者の評価は98%、99%と高い評価になっているが、教員評価についてはNo. 32（避難訓練）及びNo. 30（児童の危機回避能力向上）について評価が下がっているため、安全部会で指導内容及び計画を検討したい。

No. 33, 34, 35（保護者はNo. 34無し）は教員研修に関する項目である。保護者評価は昨年度

とほぼ同様の結果で、児童の学力向上の背景に教員の研修があることについて理解が得られていると考えている。教員については評価が下がっており、思考力育成に関連した教科指導や指導力向上のための研修に課題があると捉えている。研究発表会そのものだけでなく、学校としての思考力育成の取組について、全体での研修を活性化させたい。

No. 36 は進路指導、特に保護者に向けた情報提供に関する項目である。これまで、本校の学校評価の中で、肯定的評価の最も低いものとなっている。教員については、まだ課題があると捉えている教員が約四分の一となっているが、保護者評価は肯定的評価が大きくのびている。今年度、中等部と協議し、5、6年生の保護者対象の内部進学説明会の内容等をさらに改善するとともに、全校保護者を対象とし中高等部と初等部の校長が登壇して中高等部についての情報提供をする機会を初めて設けた。各学年ともに約三分の一の保護者が参加し、好評を得たこともこの結果に影響しているのではないかと考えている。次年度以降も、工夫を加えて実施したい。

No. 38 (保護者は無し) は関西大学との連携に関する項目である。評価が下がっているのは、研究に関わって継続的に指導を受けている黒上教授以外、他の連携がとれていないことが影響していると考えている。今後、可能性を模索していきたい。

No. 39, 40 の教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡や相談に関する項目である。教員評価の下がった No. 39 (教育後援会との連携) については、具体的な課題を共有化し後援会役員の方との協議を進めていきたい。

イ 児童アンケートについて

アンケート対象は、昨年度より4年生から6年生までに拡大しており、4年生は59名、5年生は63名、6年生は64名となっている。

全体的に見ると、No. 9 (学校生活のルール遵守 89%) 以外は、肯定的評価が90%を超えており、概ね、どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを肯定的に評価していることがわかる。

No. 1、No. 2 は、初等部での在籍及び学校生活の評価であるが、肯定的評価が99%、96%となっており、初等部生の誇りを持って充実した学校生活を送ることができたと思われる。

学習に関する項目の No. 4 (思考力がついたか)、No. 5 (授業評価) は95%を超える肯定的評価になっており、教員にとっては嬉しい結果となっているが、No. 3 (勉強意欲)、No. 6 (読書や資料活用) に関しては、90%は超えているものの、他の項目と比較すると評価が下がっている。読書そのものだけでなく、調べ学習における資料活用の機会を持たせたり、学習意欲の喚起につながる支援を進めていきたい。

No. 8 は運動会や文化祭などへの参加意欲に関する項目である。ほとんどの児童が肯定的な評価をしており、主体的に行事に取り組めたことを示している。

No. 9 (学校生活のルール遵守)、No. 10 (いじめ・なかまはずれ) については、肯定的評価が100%に近づくよう、さらに生徒指導面、児童理解面を充実させたい。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

(1) 自己評価の結果を受けて

ア 重点目標①【本校教育の柱である思考力育成の成果を教科学習等だけでなく、児童の生活においても反映させるよう努めること】について

- ・今年も研究発表会に参加したが、いつもどおり素晴らしい内容であった。新学習指導要領の内容が、初等部の取組に追いついてきたように感じている。思考力育成でこれまでトップランナーであった初等部が今後、歴史を積んでいく中で、トップであり続けるために、次にどこを目指すのかということに関心を持っている。
- ・子どもたちの学びにおいて、「なぜ」と問いかけることが大切である。ルート・コース・アナリス（RCA）という手法で「なぜ」ということを繰り返し問いかけることで、自分自身でものを考えて、結果的にクリエイティブな結果が得られることもある。そのような教育をするためには、教員が幅広い知識を持つ必要があり、お忙しいとは思いますが、先生方はいろんな所に目を向けて欲しいと考える。
- ・児童の本の貸し出し数が増えていることは良いこと。一冊の本を書くことは大変な労力を伴うため、それなりの体系が収められている。一冊の本を読むことで単に情報が得られるだけではなく、全体の流れや作者の意図が分かるようになることが大切である。最近の学生は、本を読まなくなった。ネット検索ではなく、本や新聞等から情報を得ることの大切さを学んで欲しい。

イ 重点目標②【良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること】について

- ・ミュージックキャンパス開設10周年の企画として、初等部・中等部・高等部・大学の共通で地域の方々を対象にしたオープンキャンパスのようなイベントを開催できれば良いと考える。そうした取組を重ねることにより、地域に根差したキャンパスとして地域住民に認知され、学校としての伝統や校風醸成に繋がっていくと思われる。

ウ 重点目標③【安全管理・給食・入学試験・中等部との連携・保護者連携等の学校運営体制を整えることについて】について

- ・初等部の先生方は、クラス担任もあるため、なかなか時間が取れないということもあると思うが、時間が取れる時に大学の授業を聴いていただいて、大学で自らの専門外の教育がどのように行われているかを見ることも、初等部の先生方にとって有益であると思われる。
- ・例えば、理科でも、理工系学部では実験室で様々な実験が行われており、トラブルも発生する。そのような研究室の雰囲気や学生への対応を見ることで、先生方にとっても、初等部の授業にも役に立つと思われる。化学実験での廃液処理などは環境問題にも関連しており、初等部の児童にとってもいい教材になる。

(2) アンケート結果について

- ・保護者アンケートについては、昨年度に引き続き、いずれの質問項目でも高い割合で肯定的な評価を得ている。特に、質問項目2の「子どもを初等部に入学させてよかったか」の評価については、学校としても注目しているが、昨年度が98%、今年度が99%の肯定的な評価を得ている。

- ・質問項目38の「研修を中心とした関西大学との連携」に関して、十分でないとの評価が半数を超えているが、初等部の先生方は、クラス担任があり、なかなか時間が取れないということもあると思うが、時間が取れる時に大学の授業を聴いていただいて、大学で自らの専門外の教育がどのように行われているかを見ることも、初等部の先生方にとって有益な研修となると思われる。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏 名	所属及び役職
五十嵐 昭 夫	高槻市古曾部町自治会 会長
山 崎 勝 久	元関西大学初等部教育後援会 顧問
小 澤 守	関西大学社会安全学部 教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
田 中 達 也	関西大学初等部 校長

6. 校長の意見書

関西大学初等部

校 長 田 中 達 也

開校から8年。保護者・児童によるアンケート結果、学校・教育活動評価、また学校関係者評価委員の皆様からいただく貴重なご意見は大変ありがたいと考えている。

今回も、校長としてまず注目したのは、保護者アンケートの「保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われますか」、児童アンケートの「初等部に入学して良かったですか」の設問である。今回もこの項目の肯定的評価が非常に高い割合を維持していることは、学校として大変嬉しい結果であり、日々の教育に真摯に、また熱意を持ってあたる全教職員と、深い理解をいただいた保護者の方々に感謝したい。

学習指導面においては、思考力育成を柱とした本校の取組が評価されていることが保護者アンケートの結果に出ている。また、受験対象の保護者等にも評価され、それが入試結果(出願数の伸び)にもつながったのではないかと考えている。ただ、各教科等のカリキュラム作成については、初等部6年間の系統性及び中等部とのつながりを意識した内容について、今後さらに検討、修正を加えていかなければならない。

生活指導面においては、各教員による各学年・学級の安定した経営のもと、児童は落ち着いて毎日の学校生活を送り、意欲的に学校行事に臨むことができたと考えている。縦のつながりについても、日常の学校生活における連携に加え、全学年がふれあう機会も定着したことで、児童相互の良好な関係づくりを進めることができたと考えている。児童の基本的な生活習慣、規範・人権意識等については、課題について学校全体で共通理解を図り、具体的な改善策を検討・実施するとともに、道徳や人権教育のカリキュラムについても検討を進めていきたい。

最後に、中等部との連携・接続については、保護者の肯定的評価が上がっている。今年度、一新した中等部の管理職と定期的な協議の機会を設け、内部進学説明会に加え、初等部の全保護者を対象とした中等部の情報提供会を実施したことが評価の向上につながったと考えている。

今後も、管理職及び全教員で課題を共有し、新教育課程の改訂も視野に入れながら、初等部の教

育活動改善を進めていきたい。

7. アンケート結果

2017年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（教師用／保護者用）

2017年度 学校評価アンケート 集計

2017年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（児童用）

2017年度 児童アンケート 集計

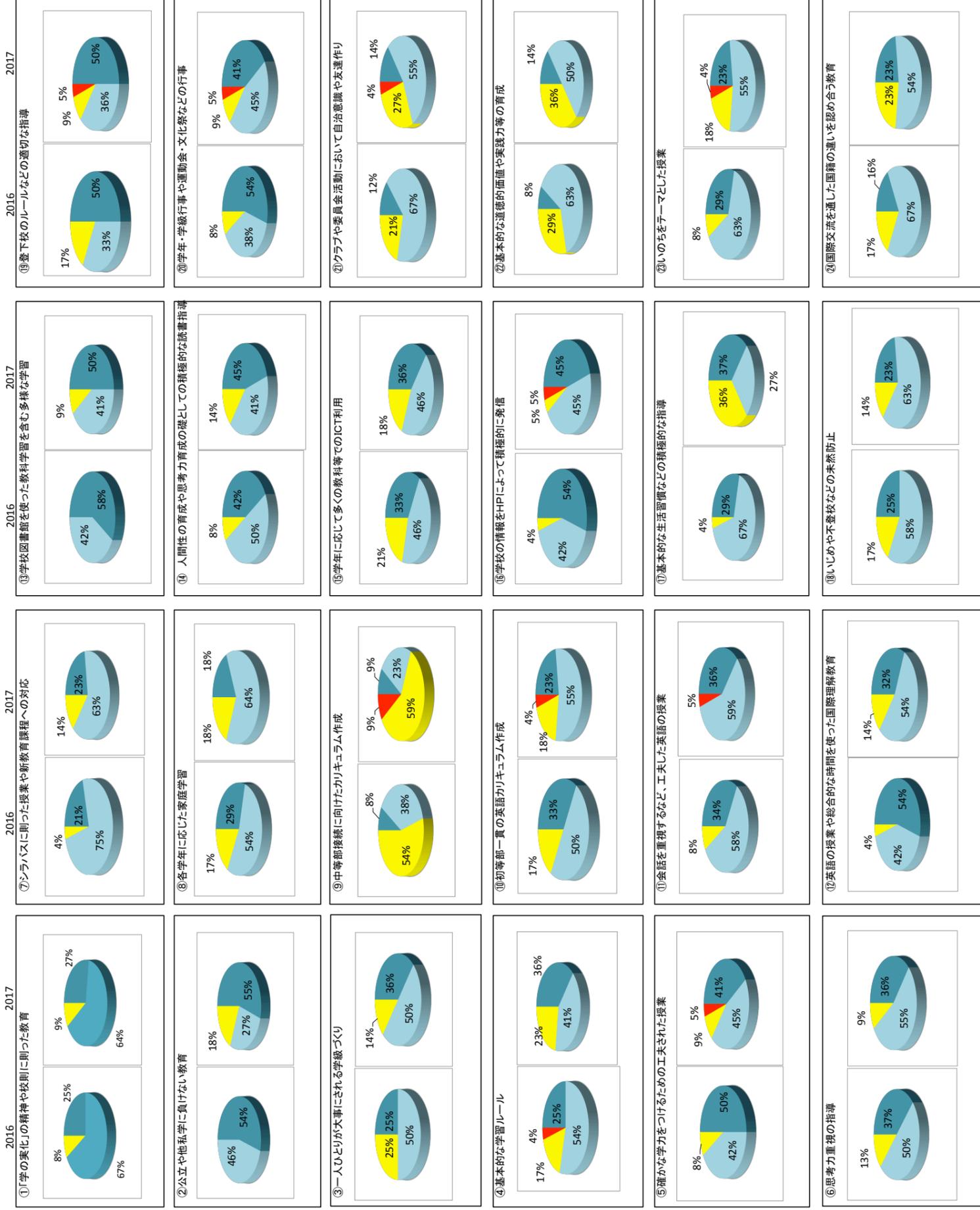
以 上

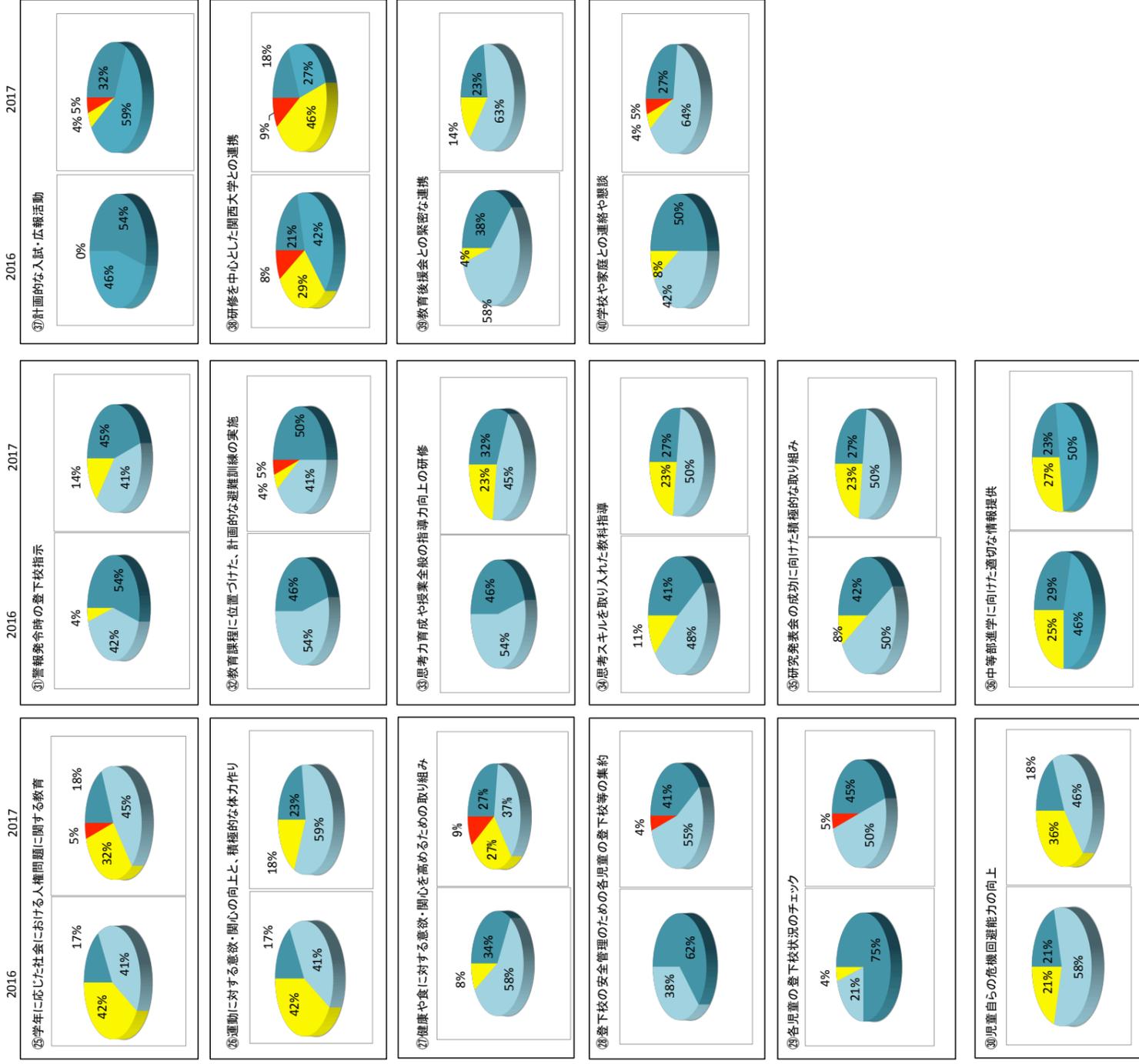
2017年度 学校評価アンケート（教員用・保護者用 質問項目）

教員用	保護者用
◎私学の独自性	①関西大学の「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。
(教育方針)	②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。
(1) 学級経営	③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。
(2) 学力向上	④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。
	⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。
	⑥思考力重視の指導が積極的に行われている。
	⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。
	⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。（家庭への啓発、指導等）
	⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。
(3) 英語教育	⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。
	⑪会話重視など、工夫した英語の授業がなされている。
(4) 国際理解	⑫英語の授業や総合的な学習の時間を使った国際理解教育が推進されている。
(5) 図書館	⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。
	⑭人間性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。
(6) ICT	⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。
	⑯学校の情報がHPや学年・学級通信・ブログ等によって積極的に発信されている。
(7) 生徒指導	⑰基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。
	⑱いじめや不登校などの未然防止に取り組んでいる。
	⑲登下校のルールなどについて積極的な指導を行っている。
(8) 特別活動	⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。
	㉑クラブや委員会活動において自治意識や友だち作りを図っている。
(9) 道徳教育	㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に図っている。
(10) 人権教育	㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。（健康教育とリンク）
	㉔国際交流等を通じて国籍などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。
	㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。
(11) 健康教育	㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りを行っている。
	㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取組を積極的に行っている。
(12) 安全管理	㉘登下校の安全管理のため、各児童の登下校路等の集約ができています。
	㉙各児童の登下校状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。
	㉚児童自らの危機回避能力の向上に努めている。
	㉛警報発令時等の登下校指示が明確に家庭に伝わっている。
	㉜各種避難訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施している。
(13) 研修	㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修を積極的に実施している。
	㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。
	㉟第8回研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。
(14) 進路指導	㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。
(15) 入試広報・連携	㊲計画的な入試・広報活動が行われている。
	㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。
	㊴教育後援会と適切な連携が行われている。
	㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。

2017年度 学校評価アンケート 教員

■よめてはまる ■ややめてはまる ■あまりめてはまる ■まったくめてはまる



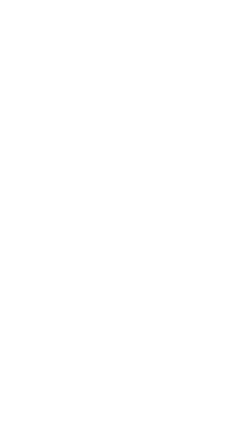
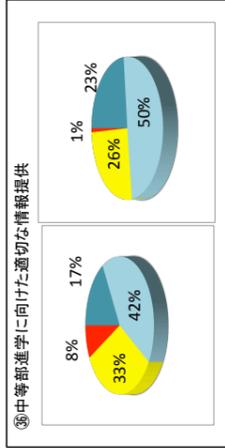
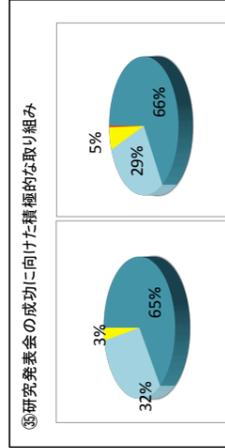
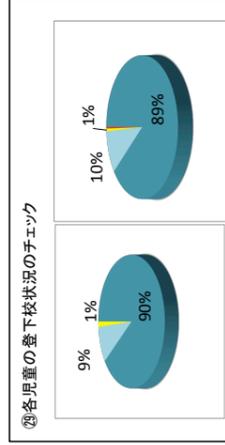
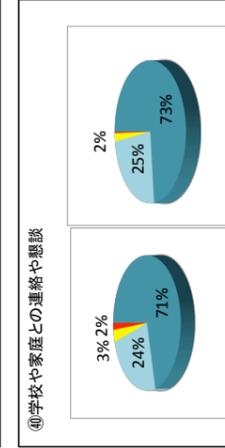
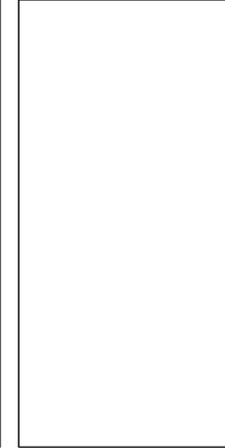
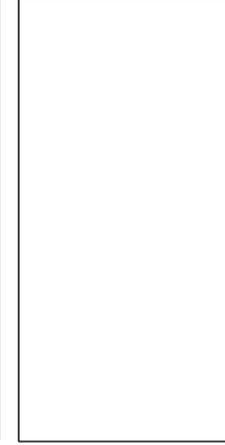
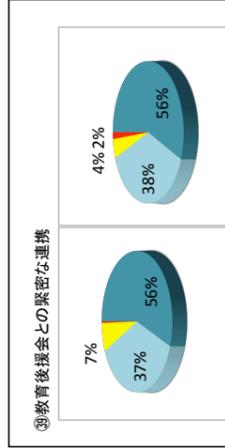
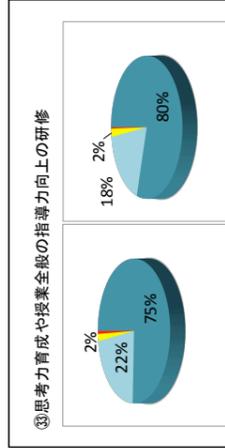
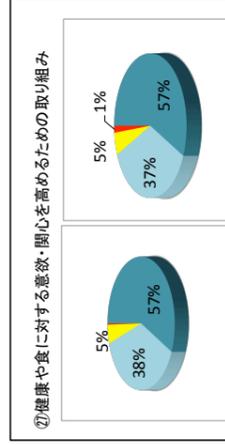
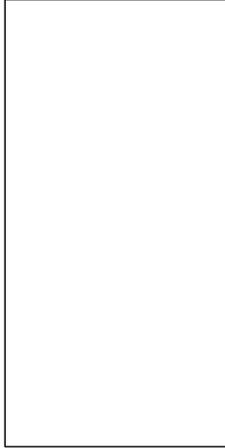
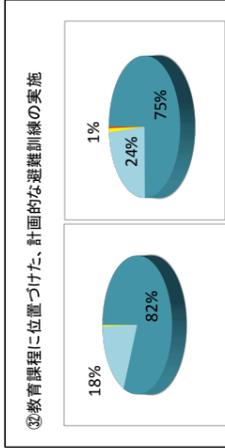
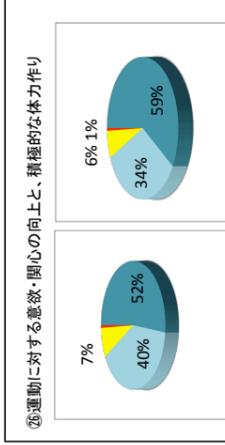
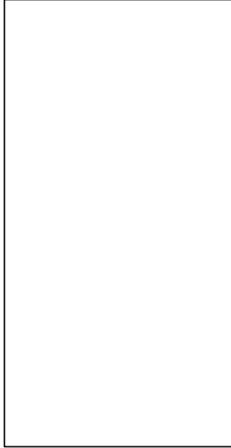
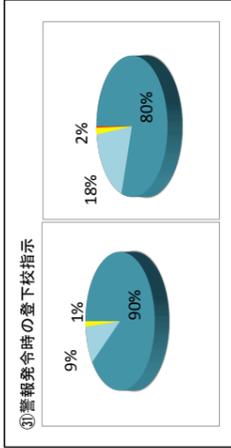
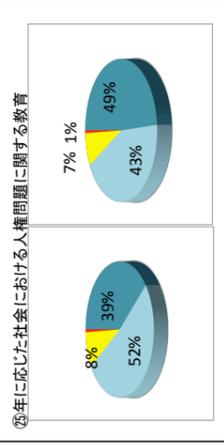


2016

2017

2016

2017



学校生活をふりかえって

名前 ()

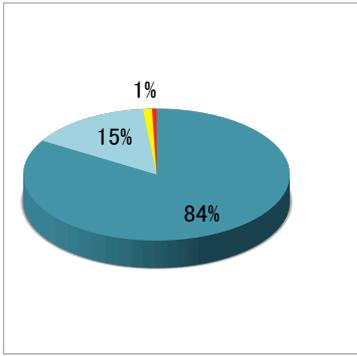
入学からこれまでの学校生活をふりかえって、下の質問にこたえましょう。

当てはまる番号に○をつけましょう。

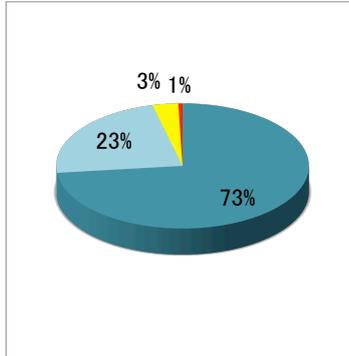
	児童用質問	1よく当てはまる	2やや当てはまる	3やや当てはまらない	4全く当てはまらない
①	関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。	1	2	3	4
②	学校は楽しいですか。	1	2	3	4
③	勉強をがんばっていますか。	1	2	3	4
④	思考力がついたと思いますか。	1	2	3	4
⑤	先生方は工夫した授業をしていると思いますか。	1	2	3	4
⑥	いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。	1	2	3	4
⑦	iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。	1	2	3	4
⑧	運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。	1	2	3	4
⑨	ルールを守って学校生活を送ることができましたか。	1	2	3	4
⑩	いじめやなまはずれなどをしていませんか。	1	2	3	4

2017年度(児童アンケート)

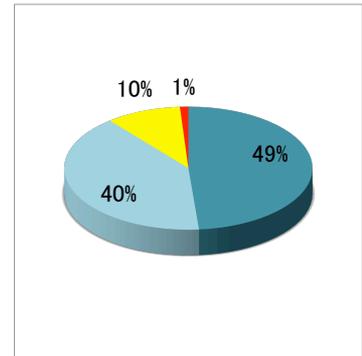
①関西大学初等部に入塾してよかったと思いますか。



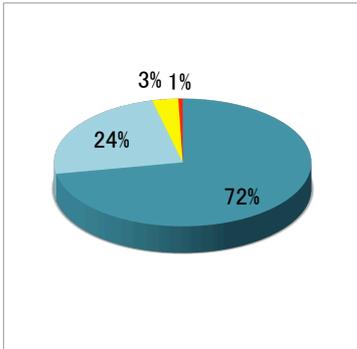
⑤先生方は工夫した授業をしていると思いますか。



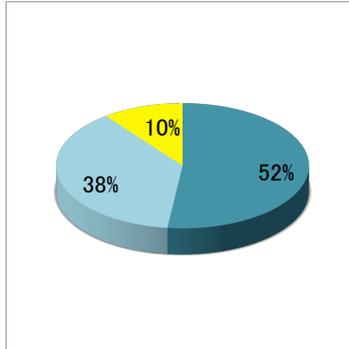
⑨ルールを守って学校生活を送ることができましたか。



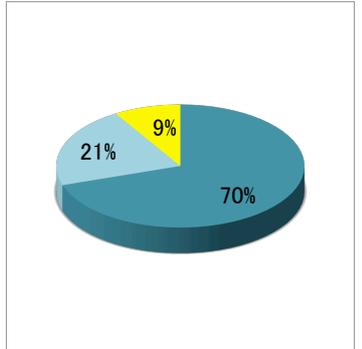
②学校は楽しいですか。



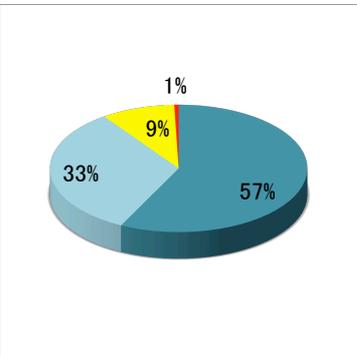
⑥いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。



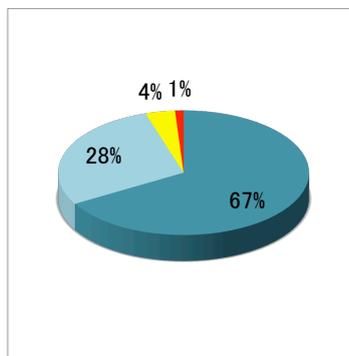
⑩いじめやなかまはずれなどをしていませんか。



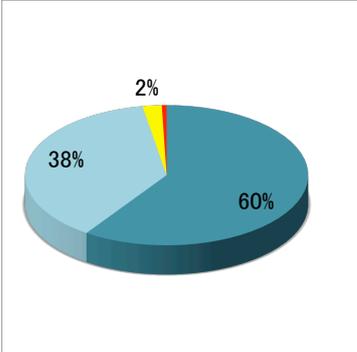
③勉強をがんばっていますか。



⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



④思考力がついたと思いますか。



⑧運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。

